

日本人女子学生が抱く美人像の変遷  
——2008年から2016年に至る9年間の調査報告——

Changes of Beauty Icons  
among Japanese Female College Students  
——A Report of Research for 9 Years from 2008 to 2016——

山田 雅子

YAMADA Masako

# 日本人女子学生が抱く美人像の変遷 ——2008年から2016年に至る9年間の調査報告——

## Changes of Beauty Icons among Japanese Female College Students

——A Report of Research for 9 Years from 2008 to 2016——

山田 雅子

YAMADA Masako

**要旨：**女子短期大学生を対象に継続的に行った美的価値観調査より、「美人」として回答された人物名について9年分の結果をまとめた。上位には、20代後半以上の年齢層の人物が多く挙げられ、最上位の人物は数年単位で緩やかに入れ替わる傾向が窺われた。また、突如として新規の名前が現れるのではなく、数名規模の小さな反応から大人数への反応へと1年から数年をかけて変化することも分かった。

**キーワード：**美人、美、女性、価値観、理想像

### 1. はじめに

女子学生たちの姿は、1日という単位で大きく変化することはない。もちろん、小さな変化というものは多々存在するのだが、数年の単位で捉えられる変化とは質が大きく異なる。その事実は、卒業アルバムにおける彼女たちの姿を見れば明らかだ。すなわち、時代を映す鏡としても彼女たちの姿があると言えよう。

彼女たちが選びとるスタイルは、本人の好みの反映であり、トレンドの表れであり、憧れの存在との同化の結果でもある。本稿は、彼女たちが何を美として捉え、どのような姿に憧れを抱いているかを「美人」というキーワードから探り、9年という時間の中での美的価値観の変化、特に若年の日本人女性の傾向を報告しようとするものである。

## 2. 方法

### 2.1 対象者および調査時期

関東在住の日本人女子短期大学生848名（平均年齢18.97歳、標準偏差0.81）を対象に調査を行った。尚、調査年による調査対象校の変更はなく、いずれも同一大学の所属者である。

各調査年の対象者数および平均年齢は下表の通りである。2008年から2012年までの5回の調査では対象者個人の年齢を取得しなかったが、他の調査年と大きく異なるところはなく、概ね18歳から20歳である。

Table 1 各調査の対象者数及び平均年齢

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	全体
対象者数（名）	180	82	114	74	111	105	82	38	62	848
平均年齢（歳）	—	—	—	—	—	18.70	18.93	18.97	18.89	18.97
調査時期（月）	4	4	4	4	9	9	9	9	9	

### 2.2 調査内容

各対象者に調査用紙を配付し、「美人」だと思ふ有名人を1名記入させた（2013年から2016年の後半4回は、2名を記入するよう指示した）。

実際の質問紙においては、当該質問の他、美しさに関する種々の内容について回答を求めたが、本資料では「美人」に対する回答のみを抜粋して調査年ごとの傾向を報告する。尚、質問紙の全体的な構成は調査年により若干異なる。

## 3. 結果

調査年ごとに回答を集計し、各調査の全対象者に対する出現割合を算出した。各調査年の結果は次のTable 2-1からTable 2-9に示す通りである（いずれも敬称略）。本報告では、2件以上の回答が集まっていることを条件に、上位から順に最大20件までを掲載した。

2008年調査では、女優の松嶋菜々子氏が最上位であった（Table 2-1参照）。全体の1割が回答したことになるが、他の年では3割を超える例もあるため、集中度はとりわけ高いわけではない。

Table 2-1 2008年調査結果（回答者180名）

順位	人 名	当時の年齢	度数	全回答者数に対する割合
1	松嶋 菜々子（女優）	31	20	11.11%
2	香里奈（モデル・女優）	24	14	7.78%
2	竹内 結子（女優）	28	14	7.78%
4	藤原 紀香（女優・タレント）	37	12	6.67%
5	黒木 瞳（女優）	48	10	5.56%
6	浜崎 あゆみ（歌手）	30	9	5.00%
7	沢尻 エリカ（女優）	22	6	3.33%
7	中谷 美紀（女優）	32	6	3.33%
7	仲間 由紀恵（女優）	29	6	3.33%
7	柴咲 コウ（女優）	27	6	3.33%
11	安室 奈美恵（歌手）	31	5	2.79%
11	篠原 涼子（女優・歌手）	35	5	2.79%
11	杉本 彩（タレント）	40	5	2.79%
14	オードリー・ヘップバーン（女優）	故人	4	2.23%
15	伊東 美咲（女優）	31	3	1.67%
15	上戸 彩（女優）	23	3	1.67%
15	蛯原 友里（モデル）	29	3	1.67%

Table 2-2 2009年調査結果（回答者82名）

順位	人 名	当時の年齢	度数	全回答者数に対する割合
1	藤原 紀香（女優・タレント）	38	7	8.54%
1	松嶋 菜々子（女優）	32	7	8.54%
3	柴咲 コウ（女優）	28	6	7.32%
4	黒木 瞳（女優）	49	5	6.10%
5	黒木 メイサ（女優）	21	4	4.88%
6	伊東 美咲（女優）	32	3	3.66%
6	香里奈（女優・モデル）	25	3	3.66%
6	北川 景子（女優）	23	3	3.66%
6	竹内 結子（女優）	29	3	3.66%
6	浜崎 あゆみ（歌手）	31	3	3.66%
11	佐々木 希（モデル）	21	2	2.44%
11	沢尻 エリカ（女優）	23	2	2.44%
11	土屋 アンナ（モデル・女優）	25	2	2.44%
11	仲間 由紀恵（女優）	30	2	2.44%
11	宮崎 あおい（女優）	24	2	2.44%

全体として女優として活躍する人物が多く挙げられていることの他、30代前後の年齢層が多くを占めていることも特徴として捉えられる。

続く2009年の結果では、女優でタレントの藤原紀香氏と、2008年でも最上位であった松嶋菜々子氏の名前が最も多く挙げられた（Table 2-2参照）。しかし、いずれも極端に回答が集中したわけではなく、本報告の全調査の中でもばらつきの多い年であったと言える。

また、前年に続いて上位には30代の人物も多く、より年長の人物を「美人」として第一に想像する傾向にあることが窺われる。

2010年には、調査開始以降初めて北川景子氏の名前が最も多く挙げられた（Table 2-3参照）。回答者の2割を超える回答を集め、2位の香里奈氏とも大きく隔たりがあることから、集中度の高さにも特筆すべきところがある。後述することになるが、この2010年以降、2013年調査を除いて北川氏は連続して首位に挙がるようになる。

また、2008年、2009年に上位であった松嶋氏、藤原氏も継続的に注目の対象となつてはいるが、より若い層が上位となり、徐々に入れ替わりが起こっていることも指摘できる。

Table 2-3 2010年調査結果（回答者114名）

順位	人 名	当時の年齢	度数	全回答者数に対する割合
1	北川 景子（女優）	24	24	21.05%
2	香里奈（モデル・女優）	26	11	9.65%
3	安室 奈美恵（歌手）	33	5	4.39%
3	黒木 メイサ（女優）	22	5	4.39%
5	柴咲 コウ（女優）	29	4	3.51%
5	松嶋 菜々子（女優）	33	4	3.51%
7	佐々木 希（モデル・女優）	22	3	2.63%
7	沢尻 エリカ（女優）	24	3	2.63%
7	杉本 彩（タレント）	42	3	2.63%
7	仲間 由紀恵（女優）	31	3	2.63%
7	浜崎 あゆみ（歌手）	32	3	2.63%
12	小雪（女優）	34	2	1.75%
12	佐田 真由美（女優・モデル）	33	2	1.75%
12	竹内 結子（女優）	30	2	1.75%
12	長谷川 潤（モデル）	24	2	1.75%
12	藤原 紀香（女優）	39	2	1.75%
12	松雪 泰子（女優）	38	2	1.75%
12	真矢 みき（女優）	46	2	1.75%
12	りょう（女優・モデル）	36	2	1.75%

Table 2-4 2011年調査結果（回答者74名）

順位	人 名	当時の年齢	度数	全回答者数に対する割合
1	北川 景子（女優）	25	12	16.22%
2	黒木 メイサ（女優）	23	9	12.16%
3	香里奈（モデル・女優）	27	5	6.76%
4	佐々木 希（モデル・女優）	23	4	5.41%
5	長谷川 潤（モデル）	25	3	4.05%
5	浜崎 あゆみ（歌手）	33	3	4.05%
7	天海 祐希（女優）	44	2	2.70%
7	安室 奈美恵（歌手）	34	2	2.70%
7	小雪（女優）	35	2	2.70%
7	杉本 彩（タレント）	43	2	2.70%

Table 2-5 2012年調査結果（回答者111名）

順位	人 名	当時の年齢	度数	全回答者数に対する割合
1	北川 景子（女優）	26	15	13.51%
2	沢尻 エリカ（女優）	26	9	8.11%
3	松嶋 菜々子（女優）	35	6	5.41%
4	綾瀬 はるか（女優）	27	3	2.70%
4	吉瀬 美智子（女優）	37	3	2.70%
4	黒木 メイサ（女優）	24	3	2.70%
4	小雪（女優）	36	3	2.70%
4	佐々木 希（モデル・女優）	24	3	2.70%
4	土屋 アンナ（モデル・女優）	28	3	2.70%
10	安室 奈美恵（歌手）	35	2	1.80%
10	石原 さとみ（女優）	26	2	1.80%
10	上戸 彩（女優）	27	2	1.80%
10	蛭原 友里（モデル）	33	2	1.80%
10	香里奈（モデル・女優）	28	2	1.80%
10	小嶋 陽菜 [AKB48]（歌手）	24	2	1.80%
10	ベッキー（タレント）	28	2	1.80%
10	水原 希子（モデル・女優）	22	2	1.80%
10	ヨンア（モデル）	27	2	1.80%

2010年調査と同様に、2011年も北川氏が首位となった（Table 2-4参照）。次いで、女優の黒木メイサ氏も1割を超える回答を集め、5位までのほとんどが20代の人物となった。前掲の2010年度の傾向を引き継ぎ、「美人像」の若年化が更に展開したとも表現できる。一方、5位以降には30代、40代の人物も依然として挙がっており、「美人」と表現する場合には、同年代やより若年の層よりも、大人っぽさや成熟といった方向性を求める傾向にあることが読み取れる。

また、上位に挙げられた人物は前年の調査やそれ以前にも名前が挙がっている。ここからは、既に注目されていた人物がドラマ出演やCMでの起用などをきっかけとしてより広く支持を集めるようになり、「美人像」としてのインパクトを強めていくことが推察される。

翌2012年も2010年より継続して北川氏が最も多数の回答を集めた（Table 2-5参照）。北川氏の他、上位には女優として活躍する人物が多く挙げられているため、ドラマやCM出演による接触頻度が強く影響していることも推察される。

Table 2-6 2013年調査結果（回答者105名）※2名ずつ回答

順位	人 名	当時の年齢	度数	全回答者数に対する割合
1	香里奈（モデル・女優）	29	17	16.19%
2	佐々木 希（モデル・女優）	25	13	12.38%
3	北川 景子（女優）	27	12	11.43%
4	ミランダ・カー（モデル）	30	7	6.67%
5	黒木 メイサ（女優）	25	6	5.71%
5	戸田 恵梨香（女優）	25	6	5.71%
5	松嶋 菜々子（女優）	36	6	5.71%
8	菜々緒（モデル・タレント）	25	5	4.76%
9	安室 奈美恵（歌手）	36	4	3.81%
9	綾瀬 はるか（女優）	28	4	3.81%
9	仲間 由紀恵（女優）	34	4	3.81%
9	水原 希子（モデル・女優）	23	4	3.81%
13	新垣 結衣（女優）	25	3	2.86%
13	桐谷 美玲（モデル・女優）	24	3	2.86%
13	クリステン・スチュワート（女優）	23	3	2.86%
13	武井 咲（女優）	20	3	2.86%
13	堀北 真希（女優）	25	3	2.86%
13	ローラ（モデル・タレント）	23	3	2.86%

2013年は香里奈氏が首位であった（Table 2-6参照）。2012年調査では2件のみの回答であったため、1年の間で大幅に影響力が増したことになる。2010年より連続して首位であった北川景子氏は、第3位に順位を下げながらも対象者の1割を超える回答があり、影響力の強さを維持している。

また、オーストラリア出身のモデル、ミランダ・カー氏も多くの支持を集め、第4位となった。第13位のクリステン・スチュワート氏と共に、世界的に活躍する海外のスターに対する注目度も2013年の段階では高まっていることが読み取れる。

2014年は、北川景子氏が4割弱の回答を集めて再び第1位となった（Table 2-7参照）。2013年調査において首位の香里奈氏は3件のみの回答となり、首位となる前の2012年度並みとなった。また、2013年調査において上位の人物は2014年においても名前が挙がり続けており、出現頻度に変化は生じるとしても、少なくとも翌年まで影響力が持続する傾向にあることが指摘できる。

2015年の調査では、前年に続いて北川氏が首位となった（Table 2-8参照）。対象者が38名と少ないため解釈には注意を要するが、他の調査年よりもファッションモデルを務める人物が多く挙がっている。また、2件以上の回答を集めた人物はみな20代であり、他の調査年よりも統一的に若い層が「美人像」とされたことも2015年の特徴と言える。

Table 2-7 2014年調査結果（回答者82名）※2名ずつ回答

順位	人 名	当時の年齢	度数	全回答者数に対する割合
1	北川 景子（女優）	28	31	37.80%
2	佐々木 希（モデル・女優）	26	8	9.76%
3	黒木 メイサ（女優）	26	7	8.54%
3	未記入	—	7	8.54%
5	沢尻 エリカ（女優）	28	6	7.32%
6	新垣 結衣（女優）	26	4	4.88%
6	上戸 彩（女優）	29	4	4.88%
6	桐谷 美玲（モデル・女優）	25	4	4.88%
6	水原 希子（モデル・女優）	24	4	4.88%
6	ミランダ・カー（モデル）	31	4	4.88%
11	綾瀬 はるか（女優）	29	3	3.66%
11	アリアナ・グランデ（歌手）	21	3	3.66%
11	石原 さとみ（女優）	28	3	3.66%
11	香里奈（モデル・女優）	30	3	3.66%
11	小嶋 陽菜 [AKB48]（歌手）	26	3	3.66%



Table 2-8 2015年調査結果（回答者38名）※2名ずつ回答

順位	人 名	当時の年齢	度数	全回答者数に対する割合
1	北川 景子（女優）	29	12	31.58%
2	新垣 結衣（女優）	27	4	10.53%
2	石原 さとみ（女優）	29	4	10.53%
4	桐谷 美玲（モデル・女優）	26	3	7.89%
4	佐々木 希（モデル・女優）	27	3	7.89%
4	中村 アン（モデル・タレント）	28	3	7.89%
4	菜々緒（モデル・タレント）	27	3	7.89%
4	ローラ（モデル・タレント）	25	3	7.89%
9	白石 麻衣〔乃木坂48〕（歌手）	23	2	5.26%
9	ダレノガレ 明美（モデル・タレント）	25	2	5.26%
9	テヨン〔少女時代〕（歌手）	26	2	5.26%

Table 2-9 2016年調査結果（回答者62名）※2名ずつ回答

順位	人 名	当時の年齢	度数	全回答者数に対する割合
1	北川 景子（女優）	30	19	30.65%
2	石原 さとみ（女優）	30	11	17.74%
3	綾瀬 はるか（女優）	31	9	14.52%
4	未記入	—	8	12.90%
5	ローラ（モデル・タレント）	26	6	9.68%
6	佐々木 希（モデル・女優）	28	4	6.45%
6	菜々緒（モデル）	28	4	6.45%
8	黒木 メイサ（女優）	28	3	4.84%
8	武井 咲（女優）	23	3	4.84%
8	水原 希子（モデル・女優）	26	3	4.84%
11	エマ・ワトソン（女優）	26	2	3.23%
11	土屋 太鳳（女優）	21	2	3.23%
11	長澤 まさみ（女優）	29	2	3.23%
11	二階堂 ふみ（女優）	22	2	3.23%
11	広瀬 すず（女優）	18	2	3.23%
11	深田 恭子（女優）	34	2	3.23%

2016年調査でも、やはり北川氏が3割以上の対象者からの反応を得、第1位となった（Table 2-9参照）。第2位からは、石原さとみ氏、綾瀬はるか氏が続くが、いずれの人物も2012年から2

件以上の回答を集めるようになっている。第1位の北川氏も同様であるが、前年まで全く名前の挙がらなかった人物が急に多くの支持を集めるということはほとんどなく、数年をかけて認知と評価が広がり、より上位へと変化する傾向にあることが読み取れる。

Table 3は、2008年から2016年までの9回の調査において最も多く挙げられた人物名をまとめた表である（敬称略）。2000年代後半は松嶋氏、2010年以降は北川氏が注目を集めていることが明瞭に捉えられる。ファッション分野におけるトレンドの変化は目まぐるしいものがあるが、美人像の変化は比較的緩やかであり、少なくとも2年以上、場合によっては5年以上の長いスパンで徐々に変化していくことが推察される。

また、2014年以降は北川氏1名にのみ圧倒的多数の回答が集まり、他の人物を挙げる意見は少数に留まる傾向、つまりばらつく方向にあることが読み取れる。このような一極集中化も時代による変化である可能性を考える必要がある。

Table 3 各調査における最頻回答（2008～2016年）

調査年	人 名	当時の年齢	度数	各年の全回答者数に対する割合
2008年	松嶋 菜々子	31	20	11.11%
2009年	松嶋 菜々子	32	7	8.54%
	藤原 紀香	38	7	8.54%
2010年	北川 景子	24	24	21.05%
2011年	北川 景子	25	12	16.22%
2012年	北川 景子	26	15	13.51%
2013年	香里奈	29	17	16.19%
2014年	北川 景子	28	31	37.80%
2015年	北川 景子	29	12	31.58%
2016年	北川 景子	30	19	30.65%

#### 4. 考察

前項において、2008年から2016年に行った9回の調査結果について概観した。だが、ここで得られた「美人」とは果たして何なのか。改めて確認しておく必要がある。

辞書における「美人」とは、第一に、「顔・かたちの美しい女」である（広辞苑第5版）。すなわち、顔やプロポーションといった、目で捉えられる美しさを持つ女性が「美人」ということに

なろう。当該意味に呼応するように、山田（2013, 2014）では、本研究の対象と同年代の日本人女性の間では、外見を重視した評価として「美人」という言葉が捉えられていると報告されている。そのような理解に照らせば、本研究で報告した「美人」は、若年の日本人女性が「美しい」と思う顔やプロポーションを持つ人物と解することができる。換言すれば、外見的魅力に富んだ人物ともなろう。では、選ばれた人物に共通点は見出せるのであろうか。

9年に亘る調査結果から推察されるのは、第1に「美しさ」にとって特別な年齢層が存在する可能性である。英国BBC制作の科学ドキュメンタリー「ヒューマンフェイス3 美しさの法則」において、アメリカの形成外科医であるS. Marquart博士は、女性には美しくなる年齢があるとし、それが14～24歳であると語っている。だが、本調査の対象者にとってのピークはより上であり、概して本人たちの年齢に10歳を足した程度のように捉えられる。少なくとも20代前半ではなく20代後半以上であり、外見における大人っぽさや成熟といった要素の重要性がここに窺われる。

しかし、単純な大人っぽさではなく、むしろ、子どもの要素が薄いことが重要であるとの指摘もある。牟田（2013）は、1,030人の男女に対する調査結果に基づき、美しい顔には面長な側面があり、子どもっぽい印象が薄いという特徴も挙げている。また、この「子どもっぽい」という印象は「かわいい」という評価と親和性の高いものでもあるが、「子どもっぽい」印象が薄くとも「かわいい」印象を持つ例もあると牟田（2013）は指摘している。挙げられた1人が、本調査でも特に多く名前が挙がった北川氏である。「かわいい」という言葉は、「魅力的」、「きれい」に次いで3番目に言われたい褒め言葉として女子学生から選択されており、その選択率は2割にも及ぶ（山田, 2017）。美人には子どもっぽさは不要ながら、かわいい印象はポジティブな方向に働くことが推察される。

また、本調査では2010年から北川氏がほぼ連続して首位となる結果が得られたが、急に多くの反応を得るようになるのではなく、首位となる1年前から部分的に注目を集めていることも読み取れる（Table 2-2参照）。ドラマの出演やCMでの起用など、視覚的な接触頻度が高まることによって単純接触効果（mere exposure effect）が生じ、世間の好ましさが高まることで更に起用が拡大し、それに伴って本人に関する外見以外の情報も各種のメディアによって積極的に伝えられるようになることが考えられる。

前述の山田（2013, 2014）では、「美人」とは逆に、「美しい」と表現する際の重視対象は内面優勢へとシフトすることが分かっている。生き方やライフスタイル等の情報が加われば、外見的魅力に内面的な魅力が付加されることになり、情報の厚さ、物語性を持つ人物ほど安定した支持を得るようになることが考えられる。

何が美か、誰を美人とするかは個人の主観による。しかし、その主観は社会の影響なしには成り立ち得ない。選択に至るまでには必ず社会の存在が入り込んでおり、大坊（1997）が指摘するところの「社会的美」の影響を受けながら主観が築き上げられる。社会の変化とともに形を変えていくのが社会的美だが、9年間のデータを俯瞰して感ずるのは当該美が形成される過程の変化である。2013年から2名の回答を求める形式に変更したことの影響や、北川氏に対する注目度が特別に強いということも考えなければならないが、2014年以降の北川氏に対する回答の集中には、スマートフォンの急速な普及とSNSの発展も寄与しているのではなかろうか。

昨今は、その人自身が「見たい」と思うものを選んで見ることができる環境である。しかもそれは、時と場所を選ばない。その人自身が選んだ、その人自身が好む情報をスマートフォンが送り続ける状態にあるとも表現できる。しかしそこには、まさに「フィルター・バブル (filter bubble)」の危うさもある。E. Pariser(2011)によるこの言葉を、宇波（2017）は「ある個人が自分にとって役に立つか、興味のある情報だけを集められるようになっている状態のこと」と解説している。この状況においては、現実を見ているつもりが、いつの間にか偏った情報の中に身を置くことになる。選びとって見ているつもりが、検索記録などから情報が自動選択され、知らぬうちに「見せられている」状態に変わる恐ろしさがある。

美人像におけるこうした偏りは然程の問題を生まないであろう。だが、今後の変化を追うにあたっては、SNSで飛び交う情報にも注意を向ける必要がある。本調査で見られたような緩やかな変化の傾向も、今後急激なものとなる可能性も皆無ではない。分析以上に状況を正確に記録することを課題とし、更なる継続的調査に取り組んで参りたい。

## 5. まとめ

日本人女子短期大学生を対象とした9年に亘る調査結果を分析したところ、「美人」として挙げられる人物について次の傾向が確認された。

- ・回答者自身よりも10歳程度上の年齢層が多く、20代半ばから30代の人物が特に選ばれる傾向にある。
- ・最上位の人物は毎年のように目まぐるしく入れ替わるのではなく、数年単位の比較的長い期間を経て変化する。

- ・2014年以降は特定の人物への回答の集中が一気に強まり、3割以上の対象者が挙げる人物が目立つ一方で、その他の意見は首位と絶対的な人数差となる傾向がある。

#### 参考文献

- 宇波彰『ラカンの思考』 作品社, 2017.
- 新村出『広辞苑第5版』 岩波書店, 1997.
- 大坊郁夫『魅力の心理学』 ポーラ文化研究所, 1997.
- BBC『ヒューマンフェイス3 美しさの法則』 丸善, 2000.
- Pariser, E. *The Filter Bubble: What the Internet Is Hiding from You*, Penguin Press, 2011.  
(パリサー E. 井口耕二 (訳)『閉じこもるインターネット—グーグルパーソナライズ・民主主義—』 早川書房, 2012.)
- 牟田淳『「美しい顔」とはどんな顔か 自然物から人工物まで、美しい形を科学する』 化学同人, 2013.
- 山田雅子 人の美しさに関わる言葉の語感の分析—若年女性における「美人」と「美しい」の使い分け—, 『埼玉女子短期大学研究紀要』 第28号, pp. 113-123, 2013.
- 山田雅子 外見の美しさと内面の美しさ—外見／内面の重視と美しさの捉え方の特徴—, 『埼玉女子短期大学研究紀要』 第30号, pp.95-108, 2014.
- 山田雅子 女性美に対する日本人若年女性の価値観—10-20代の女性が捉える女性美の構造—, 『日本社会心理学会第58回大会発表概要集』 (印刷中), 2017.